

第13期 第1回 鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日時 平成28年6月28日(火) 14時00分 ～ 16時10分
- 2 会場 鳥取市役所 本庁舎 4階第2会議室
- 3 出席者 **【委員】**  
本名俊正委員(会長)、野口淑文委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員  
欠席：大村匡由委員  
**【教育委員会(事務局)】**  
木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任
- 4 会議次第
  - 1 開会
  - 2 委嘱
  - 3 教育長あいさつ
  - 4 委員自己紹介
  - 5 校区審議会についての説明
    - (1) 鳥取市校区審議会条例
    - (2) 鳥取市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則
  - 6 会長・副会長選出
  - 7 会長・副会長あいさつ
  - 8 諮問
  - 9 議事録署名委員の選任 渡辺委員、長谷川委員
  - 10 報告
    - (1) 過去の審議経過について
      - ① 合併前の答申と校区再編の経過について(第1期～第8期)
      - ② 合併後の答申と校区再編の経過について(第9期～第11期)
    - (2) 第12期校区審議会の審議概要について
      - ① 中間まとめについて
      - ② 答申について
      - ③ 教育を考える会設置状況
      - ④ 次期審議会への申し送り事項について(報告)(平成27年11月)
  - 11 議事
    - (1) 校区審議の今後の進め方について
    - (2) その他
  - 12 その他
  - 13 閉会

## 5 議事の概要

### 事務局

みなさん、こんにちは。定刻になりましたので、只今より第1回鳥取市校区審議会を開催します。

本日の出欠の状況ですが、大村匡由様が所用のため、欠席のご報告を受けております。

続きまして、委嘱ですが、皆様には本日付で第13期鳥取市校区審議会委員として委嘱させていただきます。なお、委嘱状につきましては机の上に置かせていただいております。お1人ずつの交付は省略いたしますのでご了承願います。また、本日ご欠席の委員様につきましては、郵送させていただきますと思います。

続きまして、校区審議会の発足にあたり、鳥取市教育長の木下法広がご挨拶申し上げます。

### 教育長

みんなさん、こんにちは。お忙しい中、お出でいただきましてありがとうございます。

第1回第13期校区審議会ということになります。今回の校区審議会より、新たに8名の皆さんに加わっていただきまして、12名の皆さんにお世話になることとなりました。どうぞよろしく願います。

さて、この審議会は、鳥取市の小学校・中学校の校区に関する事項について調査・審議をしていただくものであります。市町村合併後、平成18年から再開いたしました第9期以降の校区審議会を振り返ってみますと、第9期では宮ノ下小学校と岩倉小学校区のその一部の再編を審議いただいております。第10期では佐治中と用瀬中の統合、第11期では旧気高郡の小・中学校のあり方について審議していただきました。第12期では福部地域への幼小中一貫校の設置、生徒数増加の対応が懸念される南中のあり方、鹿野地域への小中一貫校設置、さらには千代川以西エリアの校区について答申をいただきました。教育委員会は、これらの答申をもとに学校のあり方について、方向性を決定することになるわけではありますが、福部については既に福部未来学園、南中につきましては、増改築をしようとする、そして鹿野地域については小中一貫校を設置しようとする方向性を決定しております。

ところで、鳥取市教育委員会は、今年4月に教育振興基本計画を策定しております。平成28年度から5か年にわたる鳥取市の発展的な教育のあり方について計画策定しております。この計画の中でも触れていますが、今まさにグローバル時代であります。「イギリスがEUから離脱」という1国の問題が、日本を含めて世界の国々がその影響を受けていくような時代であります。そういう時代に生きる、その将来を担う子どもたち、もちろんそのような子どもが育つ地域もそうですが、これからの教育はどうあるべきか、そしてそのような教育を行う学校環境はどうあるべきなのか、という将来を見据えた地域全体での責任のある議論が必要であります。そのためには、教育委員会のみではなく、学校と家庭と地域が一体となって学校のあり方を考える検討組織などを通じ、各地域の実情に応じた活力のある学校づくりに関わっていくことが非常に大切であります。

校区審議会でご審議いただくにあたりまして、教育委員会としましても様々な情報を提供させていただこうと思っております。時代を展望した学校のあり方、それにかかわる課題等を委員の皆さんにこれから様々にご審議をいただきたいと思っております。任期が2年間ということでもあります。どうぞよろしくお願いいたします。

### 事務局

本日は第1回目の開催となりますので、自己紹介をお願いしたいと思います。次第をめくっていただきますと、委員名簿を掲載しております。名簿掲載順に従いまして、〇〇委員よりお願いした

と思います。

[自己紹介（事務局も含む）]

#### 事務局

それでは、校区審議会の説明を事務局よりさせていただきたいと思います。

#### 事務局

[説明]

#### 事務局

続きまして、会長・副会長の選出でございます。先ほど説明いたしました条例により、互選により定めるということになっております。委員の皆さまより、選出についてご意見がありましたらよろしく申し上げます。

#### 委員

事務局で案があればお願いしたいと思います。

#### 事務局

ありがとうございます。ただ今、〇〇委員より事務局の方でというご提案がございましたが、そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。

[委員賛同]

#### 事務局

ありがとうございます。それでは、事務局案としまして、会長を鳥取大学の学長顧問でいらっしゃる本名委員に、副会長を不動産鑑定士、司法書士でいらっしゃる野口委員にお願いしたいと提案したいと思いますがいかがでしょうか。

[委員拍手]

#### 事務局

ありがとうございます。それでは、全会一致ということで、会長を本名委員に、副会長を野口委員にお願いするということで決定させていただきますのでよろしく申し上げます。

そうしましたら、本名会長、野口副会長は、会長席、副会長席にご移動ください。

それでは、本名会長様、野口副会長様、改めてご挨拶させていただきたいと思います。

#### 会長

ただ今、会長を仰せつかりました本名俊正です。どうぞよろしく申し上げます。

私が鳥取にまいりましたのは、41年前で鳥取大学に赴任した時になります。ずっと大学生を見ておりましたので、小学生、中学生、高校生についてはあまり詳しくはありません。ただ、教育委員会の色々な委員をさせていただいたり、地域でも町内会をはじめ、現在も社会福祉協議会の会長を

しております。お年寄りから子どもまで毎日のように電話がきたり、公民館に行ったりしています。大学には毎日朝から夜まで勤めています。そうした中で、子どもの発達、特に子どもが少なくなってきましたので、昔と違った様々な課題が出てきていると認識しています。

一つは子どもたちの学習支援などの課題もありますが、何よりも学校の中で子どもの数が少なくなっている、そして片方ではもっと大勢の子どもたちが増えているという学校もあり、地域の中の学校という大切さをしみじみ感じております。地域に支えられてこそ学校が発展していくと思います。その意味では、地域の方々とよく話し合いをする、あるいは地域の方々の話をよく聞きながら、校区の問題を様々な形で議論させていただくことになるかと思えます。

子どもは宝だと思っています。そういう気持ちで進めていけば、皆さん一致した色々な意見が出てくると思えます。どうぞよろしく申し上げます。

## 副会長

急に副会長をお引き受けすることになり、また審議会にも加わったばかりですので、まだ校区問題については十分理解しているとは言えません。私の専門分野がどの程度お役に立つかわかりませんが、会長を補佐しながら精一杯やらせていただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

## 事務局

ありがとうございました。よろしく申し上げます。

続きまして、教育委員会から諮問をさせていただきたいと思えます。諮問書を教育長の木下より本名会長にお渡ししますので、前にお進みください。なお、諮問書の内容ですが、資料9ページに掲載しておりますのでご確認をお願いしたいと思えます。

## 教育長

[諮問書を朗読、本名会長へ手渡し]

## 事務局

教育長の木下ですが、次の予定が入っておりますので、ここで退席させていただきたいと思えます。

## 教育長

それでは、よろしく申し上げます。

## 事務局

ここからは、本名会長に会議の進行をお願いしたいと思えます。本名会長、よろしく申し上げます。

## 会長

野口副会長とともに協力して会議を進行させていただきたいと思えます。また、12期で委員をなさっておられた方もおられますので、是非アドバイスをいただき、様々なご意見を伺いながら、多少は時間がかかっても、皆さんが納得できるような結論が出せればと思えます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、日程9の議事録署名委員を選出したいと思えます。これまでどのように選出されていたか

事務局に伺います。

## 事務局

これまでの審議会では、正副会長を除く委員の皆さんから毎回名簿順に2名ずつ署名委員をお願いし、次回の審議会において捺印いただいております。

議事録は、会議終了後に事務局で作成し、ひとまず委員の皆さんにお送りしてご確認いただきます。委員の皆さんからいただいた修正事項を反映した議事録を次回の審議会でお配りする形になります。

## 会長

それでは、今回は、渡辺委員、長谷川委員ということでよろしいでしょうか。ご印鑑をお持ちいただきますようよろしくお願いいたします。

では、報告事項に入ります。事務局より報告をお願いします。

## 事務局

〔(1) 過去の審議経過について 報告資料説明〕

## 会長

ここままで、何かご質問はございませんか。よろしいですか。

それでは、引き続きお願いします。

## 事務局

〔(2) 第12期校区審議会の審議概要について 報告資料説明〕

## 会長

このところで、何かご質問はございませんか。よろしいでしょうか。

この後、議事に入りますので、ここで休憩を10分程度取りたいと思います。

〔休憩〕

## 会長

それでは、議事に入ります。

「(1) 校区審議の今後の進め方について」ですが、これは13期の進め方ということで、事務局から関係資料について説明いただいて、それを受けて、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

## 事務局

〔(1) 校区審議の今後の進め方について (第12期校区審議会の審議の基本姿勢) 説明〕

## 会長

ただ今ご説明いただきましたように、12期の校区審議会では、地域で学校のあり方を検討する組織づくりを期待しながら、地域での議論を受けて校区のあり方を考えていくスタンスで審議を進めてこられました。先ほど教育長から答申をするようにということで受けたわけですが、これから13期の我々

としてはどのような方針で進めていくかということについて、全体的に意思確認しながら進めていけたらと思います。

12期の審議の考え方は確認しましたが、一方で我々が答申を届けた後、教育委員会としてはどのような考え方で最終的に方針決定されるのかご説明いただいてから、委員の皆さんの意見を伺いたいと思います。

## 事務局

### 〔(1) 校区審議の今後の進め方について (教育委員会の考え方説明)〕

## 会長

ありがとうございます。国の方針も絡んできますし、この審議はなかなか大変です。市だけで考えればいいということではなく、国としてもどういった学級あるいは学校のあり方が重要かという方針が、59年ぶりに出されたということです。このようなことも踏まえながら、今後、鳥取市の様々な状況下にある学校をいかにしていくべきかという議論を進めていきたいと思います。

基本的には、事務局からご説明があったように、「保護者や地域の多様な思いを地域全体の意向として集約していく、そして学校のあり方を考える検討組織づくりを進めていく、そこで導き出された結論を大切にしながら尊重して進める」ということになろうかと思えます。

さて、これから我々委員は議論を進めていくわけですが、今までの説明を受けた感想を含めて、各委員の方々お一人ずつ、今後こういう思いで進めていきたいということがあれば、ぜひお話をいただきたいと思えます。〇〇委員より順にお願いします。

## 委員

校区審議会には引き続いてかかわらせていただいておりますが、学校のあり方を考える検討組織をつくるということで取り組まれているわけですが、今まだ6つしかできていません。PTAが主になる組織、公民館が主になる組織、その他自治会やまちづくり協議会が主になるなど色々ありますが、地域ということで考えればまずは自治会が柱になると思えます。まず、自治会に話を持っていかれて、どこにどういう組織をつくるというのを検討されたいと思います。まずは窓口を自治会1本にしていかなるべきで、PTAはPTAのこと、公民館は公民館のことだけということになりますので、地域全体のことを考えるとやはり自治会となります。

それから、単独で狭い地域で検討組織をつくと、例えば小規模学校であれば「学校を残してほしい」ということが必ず起こります。「地域が衰退するから残してほしい」と。したがって、教育委員会で、合併した方がいいと思われるところがあれば、単独の地域ではなく近隣地域を合わせたところの検討組織づくりを持ちかけられたらいいと思います。

## 委員

第11期の途中からかかわらせていただいておりますが、校区審議会としては地域の思いを受け止めるということが重要です。そのために、「地域に検討組織を立ち上げましょう」ということで動いてきていますが、実際に私も城北小校区に住んでおりながらできておりません。審議委員としてかかわっていても、なかなか検討組織を立ち上げられない、という難しさを痛感しております。検討組織をつくっていただくように持ちかけても自然にできるものではないので、早急に立ち上げないといけないところは、積極的に教育委員会がかかわっていただきたいです。

そして、それ以前の問題ですが、急に立ち上げて地域や保護者が学校との関わり合いが薄いということもありまして、将来の子どもたちのための教育を考えるとと言ってもなかなかそこまでできていないところがあります。今、学校支援ボランティア制度ですとか、コミュニティスクール(地域創造学校)という制度を推進されているのですが、まずは、そういったものを通じて保護者なり地域が、もっと子どもの教育なりについてしっかりと学校と意見を交換しながらベースを構築していくことが大事だと思います。その後に、将来の地域の学校がどうあるべきか考えていく流れにしていけないとなかなか組織をつくっても話が續かないのではないかと思います。

第12期におられた明治地域の委員さんも、「考える会は立ち上げたが、その後どうするのか先が見

えない」とおっしゃっておられました。考える会ができたところはしっかりとサポートしていかないといけないですし、できていないところで早急に議論が必要なところは、早急にできるような体制をつくっていかないといけないと思います。

ただ、校区審議会が地域の意見が出るまで何もしなくてもいいかというところではないと思うので、第12期の申し送り事項に入っているしっかりと議論すべきという地域については、地域の検討組織の立ち上げとは別に、それなりの方向性をこちらからの提案という形でつくっていかねばいけないと思います。

## 委員

「組織づくりを期待し、支援する」と第12期の校区審議会の申し送り事項にあるが、期待は当然するが、支援するというのとは具体的に何をすることか。組織を立ち上げると地域、住民、保護者等の色々な議論が出てきて、そこをまず集約しなければならぬという一般論はわかります。では、支援して進めていく時に、行政として、あるいは校区審議会として、どう動くかということをもう少し考えていかなければいけないと思います。その一つが情報提供ではないかと思えます。今日の資料に、文部科学省の基準に照らして緊急度が高い学校に色をつけたものがありますが、果たして地域や保護者の方々が、「早急に何とかしなければいけない、そうであればどんな策があるのか」というように思っただけのような働きかけが必要ではないかと思えます。そのためには、当然、生徒数などの数値もそうですが、近年動きのある湖南、福部、鹿野などの地域が培ってきた情報提供も一つだと思えます。

具体的に組織をつくる場所、立ち上げたらどのように進めていくのか、そういうところをもう少し教育委員会と校区審議会が、新しく考える会を立ち上げる時に寄り添うという形でやっていかなければ、「期待しています、頑張ってください」というスタンスでは、なかなか先に進まないと思えます。

福部や鹿野のように要望書を携えて、「何とか私たちの地域に特色ある学校を残してください、そのためにこのようにしていきたいです」という内容を出されたら、「わかりました、応援しましょう」ということになりませんが、全ての緊急度が高い地域がそうなるとはとても思えません。そうなったときに、どう具体的に支援していくかということをもう少し議論すべきかと思っています。

## 委員

中学校の代表でございますが、中学校だけの話というよりも、色々な視点で考えていかなければいけないなと考えています。児童生徒数の棒グラフを見ると、やはり適正規模というものがあると思えます。中学校では、例えば文部科学省が学習指導要領に「部活動も教育の一環である」と書いているのですが、「20名程度で部活動ができるか」というとできないです。「サッカーやバスケットボールなどチームで実施する競技ができない」、そういうことを考えると、その子どもたちの教育環境を保障していることにはならないのではないかなと思えます。

しかし、現状として「学校がないと地域が廃れる」などということ、地域の活性化のために学校が利用されている背景もあります。地域の活性化を持ち出されたら、教育効果を上げるというのは無理だと思えます。やはり、全国にある成功例、例えば少子化に伴い合併したが、地域の活性化もしているというものを示さないといけないと思えます。

それから、立場で発言される方もおられます。長い間自治会長をされる方もおられるかと思えますが、基本的には役員は変わりますので、「自分の役員の任期中にはいい加減なことを言えない」ということで、「責任ある発言をしにくい」ということもあると思えます。継続して協議をしていく、引き継ぎを行うなどをしないと、なかなか個人的な意見を伺っても言えないということがあります。

私は西中ですが、通学路が北中の生徒と交差するわけです。どう考えてもおかしいです。これは西中が北中校区に囲まれているのでそうなっているということもありますが、やはり適正配置は必要ではないかと思えます。また、通学に関する安全性などを最優先にするということを教育委員会や校区審議会が言わないと、自治会を説得する材料にならないと思えます。

そういう意味では、文部科学省の手引の基準というのは大いに参考にするべきですし、それを示すことによって理解が進むのではないかなと思えます。

## 委員

今日、お話を伺っていて少し気になったことがあります。保護者や地域の多様な思いとか、学校が地域のもの、というのは大切なことですし、よくわかります。現在、審議されている学校の校長先生をはじめとする先生方がどんな教育課題に直面していて、どんな将来展望をもっていらっしゃるのか、あまり今まで議論にあがっていないと思います。学校の最前線で働いておられる先生方の考えなどが伝わってきにくいところがありましたので、今期の私たちは、教育現場のお話も伺う機会も必要であると感じました。

学校のあり方を考える検討組織の立ち上げを支援していくといった時に、組織づくりの構想といいですか、どこまでレベルまで校区審議会が用意するのか、考えるのか、校区の方々にお示しするのか、お任せしてしまう形にするのか、柱のようなものをこちらで提案するのか、そのあたりの議論も必要かと思えます。

私の専門分野は学校経営とか教育行政ですので、学校統廃合の研究の蓄積もございます。必要に応じてお示させていただきたいと思えます。これは、校区審議会の中だけに留まらず、検討組織が立ち上がった時にも必要に応じて提供できればと思っています。

## 委員

情報提供ということが皆さんのお話に出てきましたが、保護者や地域の方がどこまで感じているのかということに疑問に感じました。検討組織を立ち上げるにしても、そこまでの意識のある地域は積極的にやられて要望書などを出されるのでしょうか、そうでない地域もあり、意識の差があると思えます。その中で、校区審議会がどのようなかわりを持ち、審議を進めていけばいいのか考えてみますと、地域に一方的に検討をお願いするというやり方では難しいと感じています。どのように情報提供し、支援していくのかということが大切ではないかと思いました。

## 委員

第12期から入らせていただいております。委員の皆さんから、「組織づくりに関して地域の機運や危機感をもっていただく」というようなご意見が出ました。福部の場合は、かなりリーダーシップを持っておられる方が中心に進めてこられましたし、なおかつそれをバックアップしていく地域の方がおられました。そういう中で進めていかないといけないと感じています。

第12期の最後に、城北小校区の通学路などを確認する機会などがあったのですが、第9期から出ている安全面の課題についても、緊急性のある地域も含めてどこの地区においても検討を進めていけると考えています。

また、先ほど適正規模の話も出ました。私も学校現場におり、〇〇委員のお話も非常に納得して聞かせていただいたのですが、鳥取市の場合は国の方針とは少し異なっていて、適正規模についても非常に柔軟な姿勢に立っておられます。それも考慮して、校区審議会の中でも話が進められていけばいいと感じています。

## 委員

学校のあり方を考える検討組織づくりということですが、具体的にどの地域できているか見てみると、具体的に統廃合を検討した地域が見られます。例えば、気高ですと、鹿野・青谷・気高という地域では具体的に統廃合という話も過去にあり、ある程度地域の危機感というのがあって、このような検討組織ができたのではないかという気がしています。気高の小学校でいくと、瑞穂・逢坂において、非常に小規模で危機感があるからこのように立ち上がっているのだと思います。反対に、検討組織ができていない地域は、そこまで危機感がなく「今のところ何とかなる」ということで、これまでできているのではないかと思います。「どのように組織をつくっていくのか、どのように地域づくりをサポートしていくのか」ということは、それぞれの地域の状況を十分に吟味していかなければいけないと思いました。

## 委員

平成27年の1月に国の手引が示されたということでありましたが、その時の新聞記事を読んだとき、「国の基準と鳥取市の基準がものすごくかけ離れているな」と感じたのを思い出しました。鳥取市の基



準は国の基準よりも緩やかなもので、鳥取市の現状にあったものを当てはめておられると思うのですが、例えば、自分が中学校時代に通っていた時より部活動の数が減少しているし、実際に学校現場では色々な部活動の制限もあると思います。小学校においても「児童数が減って規模が小さくなった」という話を地域の年配の方から聞きますが、現在、子どもを学校に通わせていらっしゃる方たちにとっては、「ただ単純に小さくなった」という気持ちだけで、実感として差し迫った気持ちというのを持っておられないように思います。やはり、「こんなに小さい学校で子どもたちの教育に支障をきたすことはないのか」ということを、行政はそれぞれの地域に対しても情報を伝えていくべきだと思うし、私たちも「これでほんとにいいのか」ということを伝えていく必要があると思います。伝えていくには、保護者には危機感がありますが、地域の方々はそんなには思っておられないので、まちづくり協議会や公民館などにも現状を伝えていき、みんなで学校のあり方を考える会を地域ごとにつくっていただきたいと思っています。

本日の資料の児童生徒数の棒グラフですが、現状はわかるのですが、学校ごとの増減の傾向が読み取れないので、もう少しそのあたりを情報としていただけたらと思います。

### 副会長

当初、この校区審議会の立ち位置もあまり実感としてわかない状態でしたので、会が始まる前に事務局に確認したところ、「考える会などが要望書なりを提出してくるのでそれについて審議してください」というような説明をいただきました。そのためには、考える会を立ち上げるための支援がまさに大事なのだらうと思います。今まで6つの地域で考える会ができていくということについて、この経過には「地域の熱意や危機感がある」という話がありました。「この支援をどのようにしたらいいのか」ということについて、新しい委員の方にはわかりにくいと思います。「今までどうしてきたのか」ということに加えて、この審議会が支援するという意味合いがどういうものなのかというのが頭に浮かばないので、このあたりを確認できればと思います。

そして、色々な資料をいただきましたが、地域によって緊急を要する順序があるようなので、時間の限られた審議会の中では緊急性のある地域から審議していくべきで、絞って審議していく必要があると思います。

### 会長

ありがとうございました。おそらく皆さんのご意見は大きな部分では同じだと思います。「地域に支えられてこそこの学校」という考え方は非常に大切になると思います。

考える会を地域で立ち上げていただくのは大事だと思うのですが、最初の「つくる」というところ、またそれから先のところもまた難しいところです。したがって、「どのような形でそれぞれの地域で教育を考えていただけるのか」というのを考えると、情報提供が非常に大事かと思います。

また、学級数と児童生徒数という話がありましたが、現在と5年後、さらに10年後など何年か先の状況がどうなるのか押さえておくことも大事だと思います。これから児童生徒数が減っていくというのは何となくわかりますが、「何年後にはこうなりますよ」ということを示していくことで、地域の方は切実に感じるのではないかと思います。そのことも非常に大事だと思います。

一方では児童生徒数が増えている地域もありますが、全体として生徒数が減少傾向にある中で、全国的にはどのように再編、統合、あるいは違う形で進めて成功しているのかということも確認できればと思います。

また、国の基準と鳥取市の基準が異なっていることについては、私はいいと思いますが、そういった認識をこの校区審議会でも共有すべきだと思います。

それぞれの地域とのやり取りは非常に難しいと思うのですが、基本的には考える会をつくっていただく動きはしないといけないと思います。考える会を、より機能的に進めていくためには、やはり色々な情報を校区審議会、教育委員会からどんどん提供して、考えていただくきっかけをつくる必要があると思います。福部や鹿野のように、それぞれの地域で提案が出てくれば非常に考えやすいわけですが、なかなかそこまでいかない例の方が多いのではないかと思います。地域の方との話し合いの中で、こちらで出せる情報をどんどん提供していきながら何往復もしながらやっていく中で、我々の考えも変わってくると思うのですが、同時に地域の方も変わってくると思います。そのような過程を経て、新しい学校

のあり方が生まれ、それが生きたものになるのではないかなと思います。かなり息の長い話になりますが、地域の方に支えられないとなかなか難しいと思います。そういった取組ができたらいいなと思います。

各地域で状況が違いますので、一律に教育を考える会をつくるとしてもうまくいきません。既に考える会ができている地域、これからつくろうとしている地域、是非つくってほしい地域など、温度差があると思うので、われわれもその温度差を認識し、それぞれ対応していく必要があると思います。

資料を見ていて、小規模化が進んでいるのは鳥取市の中でも周辺部が大半だと思っておりましたが、数年たつと街中の小学校もなかなか大変な状況になると思います。やはり、そういう意味でも、考える会をつくっていただきながら進めていかなければいけないと思います。この後、どのように減っていくのか、変化していくのか、その表が重要だと思います。次回には、そういった表を出していただきながら、現状の学級数だけでなく、将来どうなっていくのかということを含めて検討していけたらと思います。

まずは、各地域に教育を考える会をつくっていただくわけですが、こちらで待っているわけではなく、場合によってはつくっていくことを積極的に推進するような仕掛けを考えないといけないと思います。立ち上がった後は、様々な情報提供をしながら、数年後に危機的な状況になることを知ってもらうことから色々な提案ができるのではないかなと思います。

校区審議会の審議を進めていく中で、我々の方針も少しずつ変わってくる可能性もあるかもしれませんが、そのあたりは柔軟に進めていきたいと思います。何といっても地域の方と一緒に、子どもたちが一番いい教育を受けられる仕組みを私たちが提案しなければいけないだろうと思います。それは学校の適正規模と通学等の安全の問題が絡んでくると思います。その問題解決は、区通学区域の変更である程度できることもあるかもしれませんが、ただ、絶対的に児童生徒数が少ない地域もあるのでその辺が難しいと思います。

地域の方との連携、情報提供、その中でも様々な規模の学校がありますので、十分に調べ上げてケアしていくという形になると思います。

## 委員

今、会長のおっしゃられたことを痛切に感じております。第12期の審議をしていた中で、情報提供の点で、特に城北地区において歴史的な背景等も有していて、なかなか進まないという難しさもございます。包括的な形で会長からお話いただきましたが、それぞれの地域によっての違いもありますし、城北地区のそのような背景などの説明の機会を設けていただくなど次回お願いできたらと思います。

## 会長

鳥取市は不登校の割合が非常に高いです。これは10年以上続いています。これは校区とは関係ない話ではありますが、やはり先生が指導しやすい仕組みですとかそういったことも広い視点で考えていけないといけないと思います。先生方のご意見を聞くことも大事だと思います。いちばん子どもと接しておられるところですので、保護者とPTAと場合によっては先生方のご意見を伺いながら、これから小規模校に対してどのような教育がいいのかですとか、大規模校でもそうですが、色々な意見を集約しながらかなり柔軟に考えていかないと、一律に何人だからこうしていくべきだということにはならないと思います。

それから、それぞれの学校が歴史を背負っているのですね。この歴史を変えるのはなかなか難しいというのはそのとおりだと思います。どうしても地域に学校がなくなるということになれば、猛反対が出るでしょうし、まだまだ工夫をしながら住民の方と、教育を受ける、これから世の中を背負って立つ子どもたちが十分な教育を受ける仕組みをつくっていかなければいけないと思います。学校は残ったが、あまりにも小さすぎて十分に教育を受けられないということでも困ります。このあたりは、話し合いながら解決していくしかないと思います。ただ、ある程度我々もアイディアを出しながら、我慢もしながらお互いにやり取りする時間が回数がある程度多くしていかないといけないかなと思います。

そうしましたら、地域に考える会をなるべくつくっていただくことも含めて、地域との関わりを持つ、その意見を尊重する、校区審議会・教育委員会として様々な情報を提供しながら一緒に考えていく、そこで得られた結論を尊重する、という展望で進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

次回までに事務局には色々な資料を準備いただき、最も適正な考え方を検討していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

議事のその他ですが、何かありますか。

#### 事務局

特にありません。

#### 会長

それでは、次回はだいたい2か月後に開催したいと思ひますので、8月25日の2時からはいかがでしょう。あるいは、他の日で調整した方がよろしければそういたします。

#### [各委員日程確認]

#### 会長

それでは、次回は8月25日(木)の2時から2時間程度ということでよろしくお願ひします。

#### 副会長

以降の日程の決め方はどのような形になりますでしょうか。

#### 事務局

次回8月25日の次の開催予定日については、次回の会議までに正副会長さんと事務局で事前にご相談させていただき候補日がある程度絞り、次回の会で委員の皆さんで調整いただければと考えております。なお、そこで過半数の委員さんの出席が難しいようでしたら、再度調整なりをさせていただきたいと思ひます。

また、次回は8月25日に決定しましたが、委員の皆さんにおかれまして、ご都合に変更等が生じましたら事務局にご連絡いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

#### 会長

それでは、毎回この場で次の会の日程を決めるということにしたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

ありがとうございました。

#### 事務局

長時間にわたり、慎重なご審議ありがとうございました。先ほど委員の皆さんからいただきましたご意見、資料等の提供については、次回の校区審議会で対応してまいりたいと思ひます。具体的には、学校の児童生徒数の将来推移をご準備させていただいたり、教育を考える会の立ち上げの仕掛けをこちらからしていくというお話もありましたので、積極的に地域に出向き、働きかけをした上で、校区審議会でもご報告させていただきたいと考えております。

それでは、以上を持ちまして、第13期第1回鳥取市校区審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 渡 辺 勘治郎

署名委員 長谷川 誠 一